

スマホで積み降ろし予約

新システム来月発売



エルスリー

システムは、スマホなどからトラックの入庫予約が出来るもので、川崎陸送の京都営業所久御山倉庫(京都府久御山町)で2015年に先行導入。今回、トラ

待機時間問題を解決

トラックの待ち時間ゼロへ、ドライバー不足を解決——。川崎陸送(樋口恵一社長、東京都港区)の子会社で、物流ソフト開発などを手掛けるエル・スリー・ソリューション(同区)は、ドライバーがスマートフォン(スマホ)やタブレット(多機能携帯端末)などのタッチパネル式の端末からトラックの積み降ろし時間を予約できる「貨物積み降ろし受付予約システム」を9月13日から発売する。
(田中信也)

ック業界で懸案のドライバーの待機時間問題を解決するため、倉庫業者や流通系の配送センター、工場などを対象に販売する。

「ドライバー不足の解消や、物流の国際競争力向上には待機時間の改善が不可欠で、事前予約が最も有効な方法だ」と樋口社長は23日のプレス発表会で、物流に関する諸問題の解消には予約システムの

「ドライバー不足の解消には待機時間の改善が不可欠」と樋口社長

導入が最良の手段であることとを強調した。

川崎陸送では、坂戸流通センター(埼玉県坂戸市)と久御山倉庫で、待機時間を「見える化」する「受付システム」を8年前から導入している。だが、「受付システムだけでは、待機時間の能動的解消には不十分」として、米国の倉庫などで一般的である受け付け予約システムを開発。「ド

ライバーの高齢化、労働力不足が進む半面、通販物流の成長などますます労働集約型産業」となるトラック業界で、現実的な労働条件改善・物流効率化につな

がるシステムとして、広く普及を目指していくこととした。

特に、ドライバーの待機時間解消をクローズアップしているが、倉庫側にとっても入庫の順番が事前に分かるため、計画的な人員配置と貨物の保管レイアウトが可能となり、人員の抑制などにつながる。実際、久御山倉庫では「入庫1台当たりの所要時間が導入前と比べ55%減」など改善効果が表れており、樋口氏は「トラック、倉庫の双方にメリットがある」と話す。

予約はドライバー自ら行い、予約データはクラウド上で管理。倉庫側は混雑の状況や待ち時間などのレポートを出力でき、既存の倉庫管理システムとの連携も可能だ。

9月13、16日に東京ビッグサイトで開催される国際物流総合展2016に出展し、仮想の予約システムのデモンストレーションを実施する。